

## 令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和7年3月 25 日  
札幌市立前田北小学校

## 1 学校経営の重点目標

**おあしすの学校**  
～自分も相手も大切にする子の育成～

## 2 重点目標が目指す子どもの姿

「仲間と協力して取り組むことができる子」「相手の顔を見て進んで挨拶することができる子」  
「静かに最後まで話を聴くことができる子」「自分から進んで取り組むことができる子」

## 3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	評価の理由と改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
重点目標	「お」仲間と協力して取り組むことができたか。 (いじめへの対応)	A	<p>年度末評価アンケートにおいて、肯定的な評価(子ども 94% 保護者 95% 教職員 100%)が三者全てで 90%を超えた。子どもは、学習発表会(行事)、体育大会(行事)、係や当番の仕事、ひびきあい活動の順に仲間と協力して取り組めたと達成感をもつことができていた。保護者は、家庭や地域で徐々に子どものコミュニケーションがあたりかかようになってきていると感じていた。教職員は、ひびきあい活動を計画的に設定することで子どもが思いやりある行動をとるようになってきたと指摘していた。<b>行事で協力を引き出す題材の選定と協力の在り方の指導</b>、また今年度も重点をかけ実施した<b>高学年児童がひびきあい活動を計画し、準備</b>をすることは、肯定的な評価が 90%を超えた要因と考える。一方で「おもいやり」を「協力」のみならず、「他者意識」へと広げ、<b>廊下歩行への指導</b>にも取り組み豊かな心を育む必要がある。</p> <p>また、いじめへの対応は、シャボテンログによる毎日の子どもの心と体の健康の把握、いじめ防止対策会議を毎月開催しいじめの認知や解消の件数及び認知した個別の対応状況の確認、年4回のあったかアンケートによる子どもの困り感の把握、関係機関との連携によって、いじめの兆候の認知力を高め、子どもを支援する体制づくりに取り組むことができた。</p>	A	A
	学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひびきあい活動は、成長する子どもたちにとって、高学年グループのリーダーシップが低学年グループに受け継がれていき、学校全体のよき伝統として受け継がれています。</li> <li>・昨年度に引き続き、三者で肯定的な評価が90%超えたことは素晴らしいと思います。引き続き、他者意識をもって行動できるよう、今後も積極的に取り組んでいただきたいと思います。</li> <li>・肯定的な評価が高く、前田北小らしい「仲間を大切にする」、「いじめを許さない」雰囲気が醸成されてると感じます。豊かな心を育む大切な取組なので今後も継続してほしい。</li> </ul>		

<p>「あ」 相手の顔を見て進んで挨拶することができたか。</p>	<p>A</p>	<p>年度末評価アンケートにおいて、肯定的な評価(子ども 87% 保護者 93% 教職員 75%)が保護者で初めて90%を超えた(R4年度 82% R5年度 87%)。挨拶の取組を3年間継続したことで、家庭や地域でも挨拶をする子が増えたのだと考える。また、クラスの仲間に挨拶をする子が増えており、学級の仲間との関係が挨拶を交わし合える関係へと変化してきたと捉えることができる。挨拶する子が増加した最大の要因は、今年度も実施した「あいさつリーダー」の効果であったと考える。次年度以降も、引き続き自治力を高めつつ、子どもの挨拶に対する意識を育んでいく。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>
<p>学校関係者評価委員による意見</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校帰りに道端での出会いで、元気に挨拶する子、もじもじする子(小さな声で)、気がついていない子など様々です。そんな時、あいさつリーダーの役割は大切です。(強制はマイナスになる場合が)</li> <li>・保護者の評価が90%を超えたことはすばらしいと思いますが、教職員の割合が、昨年度と比較して、低くなっているのが気になります。「あいさつリーダー」などの取組を行い、あいさつに対する意識を向上させていくことを期待します。</li> <li>・「あいさつリーダー」の取組が高い評価につながったと感じています。今後も相手の顔を見て進んで挨拶できる児童を育てたい。</li> </ul>		
<p>「し」 静かに最後まで話を聴くことができたか。</p>	<p>B</p>	<p>年度末評価アンケートにおいて、肯定的な評価(子ども 88% 保護者 84% 教職員 55%)が三者全てで90%を超えなかった。今年度、教職員間で、本校が目指す「聴き方」、目指す「振り返りの姿」について共通理解を図り、2つの目指すものを関係付けてきた。そのことによって、子どもの「聴く」必要感を更に高めることができた。一方で、学級・学年で「聴く姿勢」をどれだけ徹底し続けるかで学級・学年間の差が生まれてきていた。次年度は、年度の始まりや学期の始まりにどのように指導していくと子どもに力が付いていくのか教職員間で指導方法の交流等行っていく。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>
<p>学校関係者評価委員による意見</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・大人の世界でも難しいことです。学校などでは、成績のよい子は、先生の話をよく聞きます。静かに聞くことは、こんなに効果があります。学生時代の私の反省から。</li> <li>・子ども、保護者と比較して、教職員の評価が特に低いと感じます。この項目は長い間のウィークポイントとなっているとのことなので、次年度以降、取組内容を工夫するなど、評価が上がっていくことを期待します。</li> <li>・子ども、保護者の評価と教職員の評価に差異があり課題を感じます。教師が目指す話の聞き方を、子ども、保護者に共有することが大切であると感じました。</li> </ul>		
<p>「す」 自分から進んで取り組むことができたか。</p>	<p>A</p>	<p>年度末評価アンケートにおいて、肯定的な評価(子ども 91% 保護者 86% 教職員 95%)が子ども、教職員で90%を超えた。子どもは、学習発表会、授業時間、係や当番の仕事の順に自分から進んで取り組めたと達成感をもつことができていた。保護者は、家庭学習、お手伝いで子どもの成長を感じていた。教職員の多くは、行事指導を通して工夫しようとする姿が見られたと指摘していた。今年度、各学級担任が意図的に授業と家庭学習の接続を行ってきたことで、進んで授業や家庭学習に取り組む子が増えたのだと考える。全校家庭学習に取り組んで8年目となる次年度も継続して実施していく。また、行事指導や学級の生活指導において、主体性を引き出すことや習慣化を考えた指導を次年度も継続して行っていく。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>
<p>学校関係者評価委員による意見</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの児童に成功体験を！学校や家庭を通して自主性を育むことは、自立した大人になるための第一歩です。</li> <li>・今年度、各学級担任が意図的に授業と家庭学習の接続を行ってきたことで、子どもたちが進んで授業や家庭学習へ取り組むようになったことを評価します。引き続き、子どもたちが達成感をもてるような指導をお願いします。</li> <li>・自ら主体的に行動したり、学習に向かったりする姿勢が高い評価を得ていることは大変良いことだと感じます。学習やそれ以外の場面でも、自ら進んで行動することに達成感が得られるような評価活動が大切だと感じます。</li> </ul>		

その他の御意見

- ・令和6年度 全国学力・学習状況調査から前北中の結果で肯定的な回答が少ない項目に「将来の夢や目標をもっていますか」全国平均 66.3%(前北 53.4%)でした。少し心配しています。
- ・なかなか子どもたちと接する機会がありませんが、手稲鉄北まちづくり協議会主催の「もちつき大会」に参加してくれた子どもたちの様子を見ると、明るく元気な印象を受けました。当日はPTAの方々にもお手伝いしていただき、事故なく行事を終えることができたこと、加えて参加者にも楽しんでもらえたと感じています。
- ・この行事のように、地域と学校、子どもたちがもっと交流する機会があれば、お互い、いい刺激を受けることができるのではないかと考えています。地域には、子どもたちのため、という思いをもっている方が多いです。
- ・次年度は、コミュニティースクールの実施に向けて一層の協力体制が大切になります。よろしくお願いします。